

全 国			◆ 8月「景気は、緩やかに回復しているが、中東情勢や自然災害の影響を注視する必要がある。」 7月「景気は、緩やかに回復しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある。」 6月「景気は、緩やかに回復しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある。」 6月「景気は、緩やかに回復しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある。」								
			・個人消費は、持ち直しの動きがみられる ・設備投資は、持ち直している ・輸出は、持ち直しの動きがみられる ・生産は、横ばいとなっている ・企業収益は、改善しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある ・企業の業況判断は、おおむね横ばいとなっている。ただし、先行きについてはやや慎重な見方となっており、中東情勢の影響を注視する必要がある。 ・雇用情勢は、改善の動きがみられる ・消費者物価は、緩やかに上昇している (下線部:変更点)								
			先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるものの、中東情勢や自然災害の影響を注視する必要がある。また、金融資本市場の変動の影響などに注意する必要がある。 (月例経済報告/内閣府/令和8年8月27日)								
中国地方			中国地域の経済は、生産は緩やかな持ち直しの動きがみられる、個人消費は緩やかな持ち直しの動きがみられる、雇用は有効求人倍率は前月に比べ上昇、新規求人数は前年同月比で増加など、全体として、緩やかな持ち直しの動きがみられる。 (中国地域の経済動向/中国経済産業局/2026年8月21日)								
山陰地方			山陰の景気は、持ち直している。 最終需要をみると、個人消費は、堅調に推移している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。設備投資は、緩やかに増加している。公共投資は、横ばい圏内で推移している。 製造業の生産は、持ち直している。 この間、雇用・所得環境をみると、持ち直している。 (山陰の金融経済動向/日銀松江支店/2026年8月7日)								
			不安定な海外情勢の影響などから生産活動は弱い動きが続いているものの、投資活動は全体として概ね堅調に推移し、個人消費も上向くなど、 総じて緩やかな持ち直し基調となっている。 (山陰経済動向/山陰合同銀行/2026年9月2日)								
島根県			県内経済は、緩やかに持ち直している。個人消費は、持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、横ばいの状況にある。 (島根県の経済情勢/財務省松江財務事務所/令和8年8月5日)								
			島根県の経済は、一部に弱い動きがみられるものの、持ち直しの動きがみられる。生産活動は持ち直しに向けた動きがみられる。雇用情勢は改善の兆しがみられる。 個人消費は持ち直しの動きがみられる。投資動向は一部に弱い動きがみられる。 (島根県の経済動向/島根県統計調査課/令和8年7月1日)								
			対前年比率(*は除く)								
			12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	本県に関するコメント
生産	鉱工業生産指数	島根県	4.1	12.1	4.0	14.0	12.6	1.7	10.8	－	
		全 国	2.6	2.2	0.4	2.4	2.0	▲2.1	4.9	－	
	機械受注(コア民需※)	全 国	16.8	13.7	13.6	▲9.4	8.7	▲12.4	9.7	－	
投資	公共工事請負金額	島根県	72.5	▲34.4	9.3	▲33.7	▲2.0	▲9.1	▲13.8	18.3	【請負金額当月増減率】7月の件数は対前年同月は増減なし、請負金額は減となった。 国：17.9%、独立行政法人等:101.2%、県：30.4%、市町村：34.6%、 その他公共的団体:▲81.4%
	全 国	98.2	95.7	96.1	102.2	100.0	87.8	99.8	102.6		
	新設住宅着工件数	島根県	19.5	▲ 31.7	17.0	60.5	▲31.0	56.4	▲22. 0	－	【対前年比】 6月の総着工戸数は 184戸。(持家：▲1.7%、貸家：▲56.3%、分譲住宅:66.7%) 5月の総着工戸数は 172戸。(持家：31.5%、貸家：82.1%、分譲住宅:177.8%)
	全 国	▲ 1.3	▲ 0.4	▲4.9	▲29.3	11.4	33.9	－	－		
消費	大型小売店販売額	島根県	2.0	▲1.5	0.6	▲0.8	▲1.0	3.8	▲1. 3	－	【対前年同月比】 (6月)衣料品：▲13.3%、身の回り品：▲15.7%、飲食品：0.4%、家庭用品：▲15.6%、 その他の商品:0.9% 食堂・喫茶：▲5.4% (5月)衣料品：6.5%、身の回り品：1.7%、飲食品：3.0%、家庭用品：▲3.0%、 その他の商品:13.8% 食堂・喫茶：▲46.0%
		全 国	1.4	3.0	2.1	1.5	2.4	5.3	▲0.6	1.8	
	乗用車(新車)販売台数 (軽乗用車含む)	島根県	▲ 3.8	6.8	▲7.0	18.2	5.4	2.6	15.7	14.8	【対前年比】 7月 乗用車： 20.2%、 軽自動車：9.9% 6月 乗用車： 30.3%、 軽自動車：5.0% 5月 乗用車： 4.1%、 軽自動車：1.3%
		全 国	▲ 6.2	▲ 6.2	▲7.3	25.9	9.7	2.8	9.5	7.7	
雇用	月間有効求人倍率	島根県*	1.33	1.34	1.37	1.45	1.51	1.49	1.52	1.44	7月の月間有効求人数：17,273人で、前月比で836人（4.6%）減少。 7月の月間有効求職者数：11,970人で、前月比で36人（0.3%）増加。
		全 国*	1.19	1.18	1.19	1.18	1.18	1.17	1.18	1.18	
	常用労働者数 (5人以上)	島根県	1.0	1.3	1.2	1.6	0.5	1.6	2.4	－	6月の常用労働者数は256,061人。一般労働者は175,923人で、パートタイム労働者は80,138人。 パートタイム労働者比率は31.3%で、前年同月と比べて0.2ポイント増。 製造業の常用労働者数は39,764人で、前年同月比3.1%増。
		全 国	1.3	－	1.3	1.1	0.9	0.8	0.8	－	
	人員整理事業所数 解雇者数	島根県	▲ 21.9	▲ 11.9	▲10.7	▲3.1	5.7	28.0	▲12.5	▲16. 7	7月の人員整理実施事業所は40事業所で、解雇者数は135人。解雇者数135人を産業別でみると、「製造業」が43人、「学術研究、専門・技術サービス業」が38人などとなった。
島根県	▲ 37.8	▲ 50.5	56.4	▲28.8	▲32.6	▲38.4	465.5	36.4			
金融・倒産	信用保証協会残高	島根県	0.22	0.95	1.94	2.95	5.22	5.49	4.67	4.67	7月度の企業倒産件数は2件、前年同月比で件数は2件減、負債総額は3億2,300万円減少した。前月比では件数は3件減、負債総額は2億6,800万円減少した。2件の産業別は製造業、サービス業他で各1件。原因別は全て販売不振、形態別は全て破産、地区別は松江市、仁多郡で各1件発生した。
	県内銀行貸出金残高	島根県	2.9	2.1	2.5	3.7	3.2	－	2.1	－	
	国内銀行貸出金残高	全 国	3.8	3.6	4.1	4.6	4.8	5.0	4.7	－	
	企業倒産／件数	島根県*	4	4	3	4	3	1	5	2	
	企業倒産／金額(億円)	島根県*	2.3	4.7	1.6	2.8	1.6	0.2	3.5	0.8	
日銀短観 (2026年4月1日) 山陰の企業短期経済 観測調査 (2026年3月調査)											
			業種	最近(前回)						先行き	
			全産業	18(12)	前回調査比改善(15四半期連続の「良い」超)。					7	
			製造業	12(4)	前回調査比改善(2四半期振りの「良い」超)。					0	
			非製造業	20(16)	前回調査比悪化(16四半期連続の「良い」超)。					9	
			・製造業は、幅広い業種で受注の回復が見られるほか、鉄鋼で価格転嫁の進捗がみられることなどから、全体では、前回調査差＋8ポイント改善し「12」となった。 ・非製造業は、卸売りや小売で中東情勢の影響を受けた駆け込み需要がみられるほか、幅広い業種で価格転嫁の進捗がみられることなどから、全体では、前回調査差＋4ポイント改善し、「20」となった。 ・先行き(全産業)は、製造業・非製造業ともに、先行きの不透明感などから悪化を見込んでおり、全体では、最近と比べて▲11%ポイント悪化し「7」となる見通し。 (2)売上・収益計画 ○ 2025 年度の売上高(全産業)は、前回調査と比べて上方修正され、5 年度連続の増収で着地した。2026 年度の売上高(同)は、前回調査と比べて上方修正されたものの減収計画となっている。 ○ 2025 年度の経常利益(全産業)は、前回調査と比べて下方修正され、2 年度連続の減益で着地した。2026 年度の経常利益(同)は、前回調査と比べて上方修正されたものの、減益計画となっている。 ○ 2025 年度の売上高経常利益率(全産業)は、前回調査と比べて上方修正され、前年度を下回って着地した。2026 年度の売上高経常利益率(同)は、前回調査と比べて上方修正されたものの、前年度を下回る計画となっている。 (3)設備投資計画 ○ 2025 年度の設備投資額(全産業)は、前回調査と比べて上方修正され、2 年度振りの増加で着地した。2026 年度の設備投資額(同)は、前回調査と比べて下方修正され、減少計画となっている。								
松江財務事務所 (令和8年6月11日) 法人企業景気予測調査 (令和8年4～6月期調査)より			1. 景況判断 現状（令和8年4～6月期）の景況判断BSI は、▲4.8%ポイントと「下降」超幅が縮小している。 先行きについては、翌期（令和8年7～9月期）は「下降」超幅が縮小し、翌々期（令和8年10～12月期）は「上昇」超に転じる見通しとなっている。 2. 企業収益 (1) 売上高（電気・ガス・水道業及び金融業、保険業を除く） 令和8年度は、前年度比▲0.4%の減収見込みとなっている。（ 製造業：▲1.6% 非製造業： 2.7% ） (2) 経常利益（電気・ガス・水道業及び金融業、保険業を除く） 令和8年度は、前年度比▲12.3%の減益見込みとなっている。（ 製造業：▲13.3% 非製造業：▲4.5% ） 3. 設備投資 令和8年度は、前年度比▲13.1%の減少見込みとなっている。（ 製造業：▲15.5% 非製造業：▲0.4% ） 4. 雇用 現状（令和8 年6月末）の従業員数判断BSI は、42.7%ポイントと「不足気味」超幅が拡大している。 先行きについては、翌期（令和8年9月末）、翌々期（令和8年12月末）ともに「不足気味」超で推移する見通しとなっている。								

※ 主要機械メーカーの受注額合計。機械の受注が大きいので統計ぶれの要因となる船舶・電力を除いた民需部分をコアの民需と呼び、企業の設備投資全体の先行指標となる。

【注】指標によっては季節調整値の修正等により遡って指標数値が改訂されている。金融に関する指標は残高で比較している。